

あら こう つ う し ん 新高通信



令和元年12月20日発行

第69号

秋田県立新屋高等学校

「やわらかな思考が未来を創る」

教頭 熊谷 禎子

つい最近、朝日新聞主催の「朝日教育会議」(歴史×ITで読み解く新時代)に参加しましたが、慶応義塾長の長谷川彰氏の「不確実性の時代、今起きていることの本質は何で、その際どう行動するのかということが大事になる」という言葉が心に残りました。わたしたちは、グローバル社会、インターネット社会という、変化し続ける世の中で生きています。そして度々想定外の出来事や課題に直面することが多くなったと感じています。そうした際に大切なのは、瞬時に反応し判断することであるのは言うまでもありませんが、それと同時にやわらかに物事を受け止め、目の前にある課題の本質は何かを見極めようとする思考性だと思います。

井上陽水と奥田民生が作詞・作曲した『ありがとう』には、「近い人 遠い人 やさしい人 つめたい人 好きな人 イヤな人 みんな みんな ありがとう Y e a h !」というフレーズがあります。たとえ怒りや嫌悪感があっても、とりあえず「ありがとう」と言うことで、微妙な雰囲気はやわらぐという、今の複雑化した社会や人間関係には必要な言葉とも言えます。物事は一面的ではなく多面的であり、否定という無からは何も生まれないとすれば、つぶやきであっても「ありがとう」の言葉は、「今」を先に進めるための追い風になってくれるかもしれません。

現在、3年生の国語の添削に関わらせてもらい、学びの深まりとともに、生徒の言葉が豊かになっていく瞬間に何度も立ち会うことができました。箱根駅伝の常勝チームである東洋大・酒井俊幸監督「その1秒をけずりだせ」は知っている人も多いと思いますが、「1秒」は目に見える具体的数値目標であるだけでなく、いわゆるスピリッツの象徴としての意味合いが大きいと言えます。選手一人一人が自らに向き合い、「1秒」に対する想像力を働かせ、そこに挑戦し続けることが、常勝チームという結果につながっています。小論や現代文添削もまた、言葉を練り上げる過程では、生徒は自らの考え方に向き合わざるを得ません。これまでの価値観そのものを見直し磨くことで、確かな言葉による表現が生まれるのだと思います。すぐに正解を求めるのではなく、出題者の設問意図を想像し、やわらかく頭を働かせ、自らの考えを耕し続けることで、「今」における最善解を自らの力で導き出せるはずです。

AIは過去のデータから未来を予測します。病院でのAIを活用した診断システムは、高度な予防医療の発展には有益だと思います。しかしAIはデータがなければ未来を予測できないとも言えます。人間はデータがなくてもしなやかな知性と感性によって想像力を働かせることで、未来を創造することができます。変化と困難を楽しむ心の余裕を意識しながら、一歩先に踏み出すエネルギーをこの冬休みに十分に蓄えてくれることを願っています。

進路決定の概要

進路指導部 佐々木 摂也

12月上旬において、3年生の約4分の3の生徒が進路を確定しています。例年よりも進捗状況が早いのですが、これは全国の動向と同じく本校でもAOや推薦入試を希望し、受験している生徒が多いことによります。そんな状況の中、国公立大学の合格者が13人に上っていること、私立大学などの合格者数も順調に伸びていることは、3年生の頑張りが形になって現れているものと考えられます。また、就職・公務員希望者も、それぞれの目標に向かって、よく頑張りました。

なお、本校3年生のセンター試験出願者は90名で、12月9日から特別時間割を組んで対策を進めています。今後も進路未決定者の支援をさらにすすめていきます。進路が決定した人もこれからの人もみんな協力しあって、3年生全員が進路目標を達成しましょう。

進路志望・決定状況

12月10日現在

進路状況	合計	国公立大	私立大	短大	専門学校	民間	公務員	未定
志望者数	171	36	59	15	43	13	5	0
決定者数 (昨年同期)	126 (118/174)	13 (8/28)	49 (29/43)	13 (22/24)	37 (37/50)	12 (16/18)	4 (7/8)	0 (1/1)

P T A 研 修 そ ば 打 ち 体 験

総務部 高橋 朗子

12月14日（土）、本校調理室において「そば打ち体験」を開催しました。学校後援会前会長の武藤真作さんを講師に迎え、調理室のガラスが曇り、途中ストーブを消して空気を入れ替えるほどの熱気の中、15名の参加者が奮闘しました。

そばに加水し、猫の手で混ぜることから体験が始まりました。照りが出るまで捏ね、陶芸の菊練りの要領で成形し、丸い生地を四角に伸ばします。生地がまとまらずボロボロになりながらの作業です。ひとつひとつの行程が難しく、自分達の思い通りにはなりません。そば切りも均等にならず手こずりましたが、茹でたあと氷で締めて食したそばの味は格別でした。講師の武藤さんと参加くださいましたP T A研修部の皆様に改めて感謝申し上げます。



探 究 委 員 会 活 動 報 告

探究委員会 青山 進

今年度から総合的な探究の時間が始まりました。1年生は「対話と協働を通して地域を知る」というテーマで探究活動を行いました。

探究活動初日の7月9日にガイダンスを実施し、総合的な探究の時間の目標や3年間の活動の流れを1年生全体で共有し、探究活動の進め方について学習しました。その後、夏季休業期間中の生徒登校日（α出校日）を使って「男鹿のなまはげ」を題材に探究活動を体験しました。

9月から10月にかけては、地域の著名人を講師として、「地域の達人講話」シリーズを実施し、新屋地域についての理解を深めました。

11月からは14テーマ、39班に分かれてグループ別課題研究活動に入りました。来年の1月28日にクラス内発表、3月3日には代表者による学年発表会を行う予定です。

2年生のテーマは「地域で活動する」、3年生は「地域に貢献する」です。「新屋地区」をより良くするためのユニークなアイデアがたくさん生まれることはもちろんですが、3年間の探究活動を大学などでの研究につなげたり、探究活動で培った経験を生徒一人ひとりのキャリアに生かして欲しいと考えています。



↑ グループ別探究活動の様子



↑ 地域の達人講話（防災）の様子

↑
地域の達人講話
（『情報』を『集める・活用する』
ために）講演の
様子